

令和5年度 地域ケア個別会議 実施結果

高齢者あんしん相談センター えぶりわん鶴瀬Nisi

日時及び場所	参加者	自立支援に資する討議内容
5月18日(木) 13:30～15:00	介護支援専門員 5名 サービス事業者 4名 生活支援コーディネーター 2名 増進センター保健師 1名 高齢者福祉課 1名 高齢者あんしん相談センター 4名  計 17名	事例①《ケース概要》 83歳男性。要介護2。夫婦二人暮らし。ヘビースモーカー・大酒豪でCOPD発症後もたばこを止められず、大動脈瘤手術後から禁煙し気胸により肺機能低下と共にADLが低下した。2022年3月29日退院後はベット上臥床での生活であった。現在室内では伝い歩き、外は車いすを利用しており、歩行器での訓練を開始した。 通所介護週2回、訪問看護週1回、福祉用具:車いす、歩行器 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 ・肺疾患の方は倦怠感も強い。パルスオキシメーターを使いながらどれくらいのトレーニングが可能か、デジタル化してゆく。 ・妻が脊柱管狭窄で介護負担を感じるようになっていたため、妻の負担を軽減するためのサービス調整も必要 事例②《ケース概要》 89歳女性 要介護1 次女と二人暮らし。朝霞に住んでいたが、入院中の母を迎え入れる為和光市に移り、その後富士見市に転居する。5.6年前までは公民館のクラブ(ソーシャルダンス等)に通っていたが、次女が寂しがると行かなくなった。長女は事業者との連絡が困難で、会うことができない。次女は統合失調症、サービスは利用していない。現在生活保護を受けている。訪問看護週1回、訪問リハビリ週2回 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 ・本人は基本活発であるが、次女の為我慢していることが多い。コンビニなどにいくことができる為(その時が次女と離れる時間)その中で楽しみを見つける ・本人の支援も必要だが、次女の支援も必要である。他機関との連携を図りながら自立してゆく方向性に関りを持ちながら探っていく。
9月21日(木) 13:30～15:00	介護支援専門員 4名 サービス事業者 4名 管理栄養士 1名 生活支援コーディネーター 2名 増進センター保健師 1名 高齢者福祉課 2名 高齢者あんしん相談センター 5名  計19名	事例①《ケース概要》 77歳女性 要介護2 長男と二人暮らし。長男が家事全般を行い、外出時も必ず付き添う。現在長男は無職。令和3年ころから本人の認知症出現。夫と二人暮らしだったが、認知症を理解できない夫からの暴言、暴力があったため、長男宅へ転居。夫は施設入所していたが自宅に戻り介護保険サービスを使い独居での生活を送る。夫の所へは週1回長男が訪問している。通所介護週2回、訪問看護週1回 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 ・リハビリ職員やケアマネジャーから、理学療法士によるリハビリを勧めているが長男からの拒否がある。長男は無職であり、金銭的な事を気にしている可能性がある。まずはデイサービスでの椅子に座っての運動や散歩等、歩くことで、運動不足を軽減してゆくことができる。 ・室内に物が多いため、転倒のリスクがある。環境整備が必要  事例②《ケース概要》 85歳女性 要介護1 夫と二人暮らし。長男夫婦は2世帯住宅の2階に居住。糖尿病があり、病院受診は夫が付き添い、買い物は長男夫婦が送迎する。本人は腰痛やひざ痛の為、家事困難。掃除や洗濯など夫が行う。夫は支援1の認定を持っており今後妻の介護に不安を感じている。通所介護週2回、福祉用具:手すり、杖、車いす(自費) 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 ・糖尿病に対する本人の病識が低く菓子パンやアイスを多く食べる。糖尿病に関しては適切な治療、生活習慣が必要なため、受診時は、本人と夫だけではなく長男も同席し医師の話を聞く事が大切 ※かかりつけ医に管理栄養士がいない場合は健康増進センターでも食事に関する相談を受けている。

2月8日(木) 13:30～15:00	<p>介護支援専門員3名 サービス事業者1名 生活支援コーディネーター1名 増進センター1名 高齢者福祉課2名 歯科衛生士1名 高齢者あんしん相談センター4名</p> <p>計13名</p>	<p>事例①《ケース概要》 88歳女性 要介護2 夫が亡くなってから独居。子供たちとの関係が悪く交流無し。妹が一人いるがあまり積極的な関りはない。信仰心が強く定期的の下赤塚の教会に通いお祈りを欠かせない。体調不良を感じる事が多く、複数の病院に通う。さみしさから人に対する恨みなどを訴える。小規模多機能 訪問週2回、通所週2回、福祉用具:トイレの手すり 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 ・身体的には自立度が高いが本人はできないと考えている事が多くなっている。専門家に話を聞いてもらう事ができる市で開催している「こころの健康相談」を利用してみる。 ・話を聞いてもらいたいという気持ちが強いため、傾聴ボランティアを利用するのもいい</p> <p>事例②《ケース概要》 85歳女性 要介護2 令和3年9月に夫が逝去されてから独居になった。夫の死後不安感が強くなり、精神的に不安定。高度の難聴により、コミュニケーションを取ることが難しい。長女が定期的に訪問しているが、長女に不信感あり。(お金を盗ったなど発言あり) 小規模多機能 訪問週7回 福祉用具:歩行器、ベット 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 ・難聴でコミュニケーションは難しいが、聞こえなくても本人が安心できる場、本人にとっても居場所があるといいのではないかと。本人宅近くには高齢者いきいきふれあいセンターがあり、無理に話さず座ってお茶を飲んだりゆっくり過ごすことができる ・長女は定期的に訪問し、受診や美容院に行く支援をしているが、本人から強い言葉をなげかけられる事が多く精神的負担がある。長女に認知症に関する知識や同じ境遇の方と話せるようオレンジカフェの参加を提案する。</p>
------------------------	---	---